

第 1 回 日田市審議会

議 事 録

日 時：平成 29 年 10 月 16 日（月）午後 1：30～

場 所：日田市役所 4 階 庁議室

■日 時：平成 29 年 10 月 16 日（月） 午後 1：30～

■場 所：日田市役所 4 階 庁議室

■出席委員：15 名中 11 名出席

石橋委員 日隈委員 坂本委員 木下委員 池田委員 篠藤委員
原田委員 日野委員 上戸委員 海老原委員 大塚委員

■次第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 会長及び副会長選任
4. 会長あいさつ
5. 議題
 - (1) 総合戦略評価スケジュールについて
 - (2) 総合戦略 平成 28 年度分事業評価について
 - (3) 地方創生加速化交付金の事業評価について
 - (4) その他
6. 閉会

発言者	主 旨
事務局挨拶 委嘱状交付	<p>皆様 大変、お疲れさまでございます。只今から、第1回 日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を開催いたします。よろしくお願い申し上げます。</p> <p>本日の会議次第に基づきまして進行してまいります。</p> <p>会議に先立ち、審議会委員の委嘱状を交付いたします。</p> <p>なお、本来でありますと、皆さん方、一人ひとりにお渡しすべきでございますが、省略させていただき、皆様のお席にご用意いたしました委嘱状にて交付に代えさせていただきます。皆様方には本日から2年間審議会委員としてお願いしたいと思っております。</p>
事務局	<p>なお、本日は、日田商工会議所 会頭 十時康裕 様、日田市森林組合 代表理事 組合長 井上明夫 様、連合大分日田玖珠地区協議会 議長 諫山智 様、日田市自治会連合会 会長 岩里諫夫 様は所要の為欠席のご連絡をいただいております。</p>
事務局 会長及び副会長の選任	<p>次に、会長及び副会長の選任でございます。</p> <p>日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会設置要綱第5条の規定に基づき、会長、および副会長の選出を互選によりお願いいたしております。</p> <p>ここで、委員の皆様にお諮りしたいと思います。どなたか会長・副会長に立候補される方はごございませんでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">～ 立 候 補 者 な し ～</p> <p>立候補者がおりませんので、事務局案を提案させていただきます。</p> <p>事務局案として、会長に別府大学 教授 篠藤委員、副会長に本日はご欠席されておりますが、日田商工会議所 会頭 十時委員に打診させていただければと思いますが皆様宜しいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">～ 委 員 承 諾 ～</p> <p>それでは、会長には篠藤委員に、副会長は十時委員に事務局から打診させていただくことをご賛同いただきありがとうございます。それでは、篠藤会長からご挨拶をお願いします。</p>
会長あいさつ	<p>皆さんこんにちは。私は、地方創生総合戦略審議会委員として2年前に委嘱され、戦略策定をしてきました。今年で3年目になります。人口が増えるかどうかは、その時に多くの議論がありました。3年前に発表された20年後30年後の人口予測は日本中に衝撃が走りました。これは5年間くらいで国のトレンドが変わる</p>

	<p>かどうかが非常に重要で、変わるというところが出てこないと突如何かがあって人口が変わる、戦争があるとか大量の難民が来るとかは別ですが、そうではない場合通常は起こらないと言われていました。総合的に暮らし全般にかかわることを厳密にしながら、KPI（目標）をそれぞれに設定して取り組んでいかなければなりません。1か所に力を注いで全てがうまくいくということはない、だからこのような総合戦略を策定したと思います。ただ、そういう中でも今年が中間年なので、忌憚のない意見交換をしながら見直して、残りの2年半をどう取り組んで行くかが大切だと考えています。本日は忌憚のない意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。それでは、これからの審議の進行は、設置要綱に基づきまして、会長をお願いいたします</p>
会長	<p>それではまず、事務局から会議成立の報告をお願いします。</p>
事務局	<p>（日田市まち・ひと・しごと創生 総合戦略審議会 設置要綱第6条第3項） 設置要綱に基づきまして、審議会の成立は、『委員の半数以上の出席』といたしております。</p> <p>本日は、15名中、11名のご出席を頂いておりますので、この要件を満たしておりますので、会議が成立いたしますことを ご報告いたします。 以上です。</p>
会長	<p>それではさっそく、議題に入りたいと思います。</p> <p>事務局は、議題の1 総合戦略進捗管理スケジュールについて、説明をしてください。</p>
事務局	<p>■資料1 日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗管理スケジュールについて説明</p>
会長	<p>それでは、総合戦略進捗管理スケジュールについてご説明がありましたが、これについてご意見・ご質問がありましたら挙手にてお願いいたします。</p> <p>無いようですので、続きまして、事務局より議題2の総合戦略の数値目標・重要業績評価指標（KPI）の平成28年度分達成状況について、説明をしてください。</p>
事務局	<p>■資料2-1 総合戦略の数値目標・重要業績評価指標（KPI）の平成28年度分達成状況</p> <p>■資料2-2 基本目標1～4のまとめについて説明</p>
会長	<p>今日、まず一つが、平成28年度に対しての達成状況についてということで資料が事前に配布されており、事務局からの説明と考えが述べられました。そこでまず、達成状況についてご質問を皆様から受付、その次に、会の冒頭で申し上げましたが、総合戦略のちょうど半ばに当たる年なので今後見直しをすることが必要なのではないかと考えています。ここについては、資料2-2も参考にしながら各位の忌憚のないご意見を聞き、後日市役所庁内で検討いただき、それを踏まえ</p>

	第2回審議会が開催される流れです。まずはこの数値の達成状況についてご質問等はございませんでしょうか
委員	議論に入る前に、新しい委員の名簿はいただいておりますが、新しく審議会委員なられた方に、この審議会の概略の説明はしているのでしょうか。
事務局	資料はあらかじめお送りはさせていただいておりますけれども、個別の詳しい説明までは至ってはおりません。今日のこの場でご質問等ありましたら、ご説明させていただきますように思っております。
委員	日田市にとって非常に必要な案件だと考えています。事前に資料を配布してはいますが、その資料を見て、日田市の総合戦略の全体像を理解することは非常に難しいと思います。時間の都合等もあると思いますが、今まで検討してきた内容や、4つの基本目標が何を目指したのかなど、新しい委員の方へ概略については説明をする必要があると思います。この審議会での議論は、それを理解したうえでのやり取りだと考えます。今日は無理だと思っておりますが、質問等、発言しづらいと考えますがどうでしょうか。
事務局	今回はこういう形になってしまいましたが、どこかで今回の会議の内容も踏まえてフォローできる機会を作りたいと思います。
会長	貴重なご意見ありがとうございます。今日ご出席の委員の方で、今回初めてなられた方がおります。石橋委員からのご意見も踏まえて、新しく委員になられた方に自己紹介を兼ねて、そもそもこの場が何かということやご感想をなどをお願いしたいと思います。
委員	日田金融協会の会長という立場よりこの審議会に参加いたします池田です。7月に就任をいたしました。よろしく願いいたします。確かにご説明いただかなかったのですが、昨日資料を確認し、だいたいは理解しているつもりでございます。私も大分銀行の銀行員として平成9年から平成12年までの3年間日田に勤務しておりました。また、実家も日田にありまして、生まれてから小・中・高とこちらで過ごしております。日田の発展のためと思って着任しました。よろしく願いいたします。
委員	今年度4月から地域おこし協力隊として赴任している上戸と申します。担当地域は大山町で、大山町に住んでいます。もともとは長崎の出身で、全職は作業療法士として病院に勤めていました。福祉の視点も少し持ちつつ、それに捉われずにいきたいと思っています。日田が本当に好きで、日田にほれ込んで日田の移住者になりました。たまたまこの仕事が面白いなと思ってやらせてもらったので、移住者の視点で何か日田のためにお役に立てたらいいなと思っています。総合戦略の内容についてはなかなか難しいと思いましたが、議員さんと少しお話しする機会があったので、アドバイスをもらいました。よろしく願いいたします。
委員	坂本茂と申します。市会議員として2期目でございます。現在、産業建設委員会に所属しております。よろしく願いいたします。

委員	はじめまして。大分県農協の木下と申します。よろしくお願いたします。私は現在、金融共済を受け持っておりますが、数年前までは営農分野を担当しておりました。この地域が抱える現状というものは、農業についてはわかっているつもりです。意見を出せるよう頑張っていきたいと思ひます。
委員	一般社団法人日田青年会議所の原田と申します。今日はよろしくお願申し上げます。私共の団体は主に健全育成と地域を継続可能な形で残していこうという運動を行っています。特に、今回の総合戦略の中でも、基本目標2の「日田市への新しい人の流れをつくる」という部分で、私たちの団体も特に取り組みたい分野なので、ぜひこの機会を生かしたいと思ひています。先ほど委員からご意見があったように、会議資料をもう少し早く送っていただけたら助かります。今後ともよろしくお願いたします。
会長	今初めてご出席の方全てにご発言いただきました。それぞれの分野の方々がこの審議会に参加しています。この場での活発な意見討議がすごく重要だと思ひます。ぜひ積極的にご発言いただきたいと思ひます。それでは、KPIの達成状況についてご質問を受けたいと思ひます。いかがでしょうか。
委員	3ページの新規林業就業者数の達成度 61.36%で、5年間の目標が125人で実績が27人。残りの期間で100人弱という目標になっています。これは日田の産業でも特に再生を図っていこうということで「新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン」を日田市は策定し取り組んでいます。ただ、ここ数年林業作業の事故が立て続けに発生していますが、若い人が就職しています。危険を伴う仕事はきついの意見もありますが。一方で、津江の方では、若い女性の方が林業作業されているという明るい材料もあります。そういった中で、今後の方針に「実績を上げている自治体などを研究しながら雇用の拡大に取り組む」と書いていますが、この説明だけで果たして目標に達成できるのかと思ひます。今後の取り組み方法を具体的にしないと、目標を引き下げるのかという話にもなる。その点はどう考えているのでしょうか。日田市としては力を入れているので、ここをどうするのかというのが、先進地の状況を見てという説明では弱いと思ひます。どうでしょうか。
会長	委員の質問については、後ほど皆さんに何う予定の基本目標1のご意見として集約させていただきます。その時に、詳細の説明等を事務局から説明いただくという取り扱いにさせていただきます。ほかにありませんでしょうか。まずは、達成状況についてのご質問をお願いします。
委員	3ページ中段の集落営農組織の法人数について、112.5%という達成率としては大きくクリアしていると思ひますが、実際は、法人をつくるのが、次のステップに入るための段階だと思ひています。農業法人が設立されたことにより、市として考えるプラスアルファの活動に繋がっているのでしょうか。例えば農業経営者の高齢化の問題や耕作放棄地の課題にどのように取り組むかだと思ひます。

	<p>そこらあたりの視点が、これから先取り組む集落営農体制があるのかどうかというところが肝心なところではないかと思えます。この部分の確認が重要ではないかと思えます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。他はいかがでしょうか。資料2-1では細部について聞きたいということが多いと思えますが、純粹にわからないことがありましたら質問していただきたいと思えます。このあとの議論の中で、達成状況だけでは分からない部分を踏まえてご発言をいただく流れでいきたいと思えます。ではここからは、KPIの達成状況としての数字と、今後の取り組みについて、委員からのご意見と、他の委員からは数字は達成しているが、これで本当に結びつくのか、取り組む内容についてそうなのかというご意見がありました。それでは、資料2-2を確認しながら、ご発言をいただければと思えます。基本目標1について、どうぞご自由な意見をお願いします。</p> <p>特に委員のみなさまは背景をお持ちですから、全体ではなく、自分の見る視点から基本目標1について率直な意見という形で受け付けたいと思えます。</p>
<p>委員</p>	<p>私は、第1次産業に携わっておりますので気づいたことを申し上げます。先ほど委員からお話のあった農業生産法人についてです。これは大分県からの指導もあり組織数は伸びています。ただ私が感じるのは、ただ組織を作ればいい、集落で農作業に取り組む観点でただ集落をまとめて作っただけ感が否めません。大鶴、夜明地区で実際に取り組んでいる、農事組合法人 大肥郷ふるさと農業振興会は、構成員が高齢化になっていきますので維持が難しくなっています。今後は集落営農を学ぶスクール等の何らかの組織が日田市には必要であると考えます。農業所得の向上を目指し農業改革が推進されているが、その農業所得を向上させるためには、機械、コストは最低限必要となってくるが余分なコストはかけられない。そこら辺を法人が持っている施設の集約とかができれば、もっと若い人も働ける場が作られ、耕作放棄地も増加しないと思われる。ある程度農協がそれをすればいいんでしょうけれども農協が農業をするということができないので困っている状況です。また、日田市の作物として、スイカとか白菜とかありますが、この資料にもありますように台風の被害、梨については木が古くなり植え替えをしなければならぬが、後継者がいない。小さく言えばこういう不安要素がかなりある。そこを大局的にどうまとめていいのかわかりません。しかし、一方で、梨の輸出量は増えていますが、この数字だけを見て、喜んでいても5年後10年後は農家数が減少します。そこら辺を合わせた中で大局の視点であればいいのですが、そういったところは不安だと思えます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。今、第1の柱、「第1次産業の競争力を高める」ことの内実についてご意見がありました。関連しても他でも結構です。いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>KPIの4ページの梨の年間輸出量について、目標からすると達成度が41.83%と低いです。先ほど委員からご意見がありましたように、樹齢の問題と後継者不足</p>

	<p>の問題があるとのこと。年間輸出量の KPI という目標が、本当に梨の販売力が向上しているのかという気がします。台湾に輸出しておりますが、もう少し、梨の部分で別の KPI や数字を持って、目標に後継者を作っていく、そして所得が上がっていくところの部分を出さないと、総合戦略ではあまり見えてこないのではないかと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>具体的に何かヒントのようなものはありますか。</p> <p>今、一次産業についての議論になっていますが、例えば後継者の問題とか、就業者の年齢構成がどうなってどう変化しているとか、新しく入ってきた人の就農がどれくらいあるのかなど、クロスした集計がないと細部がわからないということがあります。それから、年間輸出量を別な切り口で見えないと戦略が見えないのではないかと、といったご発言と思います。</p>
<p>委員</p>	<p>ヒントになるかはわかりませんが、日田はかなりインバウンドが強みであると思います。九州や天ヶ瀬もそうですが、中国や韓国の旅行者が今でも多い。輸出というよりも、日田に来ている外国人の方に日田梨を売り込むような事が必要だと思います。例えば食事のデザートとか、今でもいろいろ考えている部分はあるかと思いますが、もう少しインバウンド対策で日田に来てもらった方に日田梨の良さを広めることができるのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>梨については、確かに海外戦略も大事だと思いますが、国内にも目を向ける必要があるのではないかと思います。福岡、大阪、東京などの大都会にもう少しアピールできるのではないかと思います。特に、ホテル、旅館は必ず食事の最後にフルーツが出てきます。梨・スイカ等の日田の自慢できるブランドがあるので、これを活用し、国内に目を向けるべきだと思います。実際に食べていただければ、日田梨の甘味というのはわかっていただけるので。そうなればホテル等との繋がりもできると思います。国内に目を向けるなど、別の角度からの戦略で販売していくといいと思います。</p>
<p>議員</p>	<p>梨の年間輸出量について、農協の梨部会はこの目標を知っているのでしょうか。去年が99.5トンだから28年度は240トン目指しましょうとか、そのための戦略とかは市と梨部会が一緒に取り組んでいるのか教えてください。</p>
<p>事務局</p>	<p>まずは、委員からご意見のあった梨の項目設定の理由についてご説明いたします。地方創生関連の国の交付金を活用して、平成 27 年度に梨の保冷库を作りました。保冷库をつくる時に KPI の設定が必要となり、その交付金のため設定した KPI を総合戦略に掲載することが国から示されている関係で KPI を設定した経過がございます。みなさんのご質問や問題提起の中でありましたように、梨の輸出量だけで梨のすべてを図るという考えは今のところございません。そういった経過があって現在の総合戦略に掲載しているのが現状です。</p> <p>また、委員からのご意見ですが、農協の梨部会等との連携については、農業振興課が保冷库の建設にあたり、保冷库の活用方法等について梨部会と情報共有を行</p>

	<p>い、240 トンの目標設定を行っております。ただ、その当時は共通の認識としてきましたが、今、240 トンを意識できているかという正確には言えません。この辺りは、ご意見いただきましたとおり、常に目標設定や意識をもって事業を推進するようにと担当課にも伝えたいと思います。</p>
会長	<p>今、梨について質問が集中していますが、ほかの部分についてもそれぞれ担当課があります。しかし、担当課が輸出するわけでも生産するわけでもありません。結局は一緒に取り組んでいる企業やその分野の方々がいるので、常に目標設定については共有する、あるいはその方々が目標意識を持つことがなければ、実現できないだろうと思います。梨だけではなく他の全てに渡って、担当課というよりは、対象となっているそれぞれの分野の方々です。今「第1次産業の競争力を生み出す」ところに議論が集中していますが、「企業を呼び込む」や「チャレンジする地場企業と創業を支援する」のところについてはいかがでしょうか。</p>
委員	<p>7ページの企業を呼び込み雇用を生み出すというところについて。「ジョブカフェおおいた日田サテライト登録者の市内企業への就職者数」や「求職者資格支援事業利用者の市内就職者数」について、達成度が若干低いかなと思います。今後の取り組み方を見ていると、ジョブカフェおおいたを必ずしも通した人の就職者数を増やしたいのか、2つの目的が1つの取り組みの中に入っていて、ぼやけるように感じました。次に、資格取得支援事業については、利用した人の市内就職数があまり伸びていないが、この事業のニーズが、資格が必要な技能職のなり手の減少が原因と考えているのに、今後はこの事業をホームページ等で周知を図っても、その問題の解決に繋がりにくい気がします。この取り組み方に関してはもう一度考えてみる余地があると思います。</p>
会長	<p>重要なお意見だったと思います。ジョブカフェといったルートではなくても、有効求人倍率も良くなっているので、他のルートでの就職も考えられるわけです。次に、資格が必要としての取り組みに対して今後も引き続き広報していきますというのは、ずれているのではというご意見でした。</p> <p>他はいかがでしょうか。「企業を呼び込む」というところでしたけれども、「チャレンジする地場企業と創業を支援する」のところでもご意見がありましたらお願いいたします。</p>
池田委員	<p>企業誘致の推進というところで、金融機関が活動している中で、新規雇用、規模の拡大のために広い土地を望む企業が結構あります。街中から郊外に出たいという声が2、3社あります。現在、広く纏まった土地が日田にあまり残されていないという実情があります。ニーズに合う土地を確保できないか検討していただければと考えます。このような会社が移転すると、市内に残った広い土地が再有効活用されるなどして雇用が生まれるのではないかと考えます。</p>

<p>会長</p>	<p>以前もこの内容のご意見が出たかと思ひます。また再度ご検討していただき、次回説明していただければと思ひます。</p> <p>次に基本目標の2「日田市への新しい人の流れをつくる」について皆様からご意見をいただければと思ひます。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどの件も含めてですが、農業をしたいと思ひ日田に入ってくる方もいます。私たちの移住の仲間で、一度キノコ後継者で入ったけれどそれがうまくいかなかった方がいます。それでも農業がしたいと思ひた時に、日田の中では、なかなか受け皿が見つけにくいところがあるようです。玖珠とか九重は受け入れの準備が整っていると感じました。先ほど木下委員の意見を聞いて、農業をしたい人はいるけれども、その人を受け入れる関係やマッチングは今の農協さんには難しいこと、また、法人が増えているが自治体レベルでの集落営農がされていることを考えると、自分の生活の基盤が立つとかそういうイメージを持って農業に携われる土壌づくりができると、さっきも話にありましたが、農業の不遇部分も含めて新しい人の流れによいのではないかと思ひます。例えば集落を繋ぐ、お金の創出まで含めたNPOとかで下支えで面倒をみるとか、そういう部分も必要なのではないかと思ひました。</p>
<p>会長</p>	<p>この話は、計画策定の時にも、外から移住してくる時にワンストップではないけど、「ここに行けばこまめにマッチングできる」というような場所が必要だという議論がたくさん出たと思ひます。その辺はいかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今、移住施策として様々な事業がありますが、総合窓口としてひた暮らし推進室を設けています。ここが窓口となり、農業に関することであれば農業振興課に繋いでいます。ファーマーズスクールや青年農業後継者育成等様々な事業に取り組んでいますが、先ほどのご意見を踏まえ、再度確認をするとともに、他市と比べて不足するものがあれば、再度見直していきたく思ひています。</p>
<p>会長</p>	<p>例えばホームページのトップページ画面に、「移住したいしたい人なんでも相談はどうぞ!」といった発信はしているのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ホームページのトップ画面に移住に関する部門は作り込んでいます。しかしそれが、目立つ形になっているかと考えますと、職員は日ごろから慣れた目線で作成しますので判断は難しいです。これについては改めて確認をさせていただければと思ひます。</p>
<p>会長</p>	<p>確かに計画策定の際にワンストップ窓口については議論がありました。事務局から説明があったように「ひた暮らし推進室」が設置された経過があります。しかし、先ほどからの委員からの意見を聞きますと、細やかなマッチングが必要との意見でした。</p> <p>基本目標2で、他にもご意見いただければと思ひます。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどからの意見の視点がものすごく重要だと思ひます。日田市の農業だけではなく、移住施策や新規就業者、後継者支援など結構充実していると思ひます。しかし、支援を活用した方へのフォローが足りないと思ひます。そこに就農した人</p>

	<p>達が、「ここは本当に住みやすいし、何とか苦勞しても頑張るぞ」というような体制をどうやってバックアップできるかについて、考える必要があると思います。竹田市や豊後高田市の就農は知名度があり、移住者が増えています。システム的にも支援制度でも日田市はいいと思います。だから制度を活用した方へのフォローをどうやってやるか、営農指導員や地域の農業関係者とのマッチングや数年間のフォローなどをどういった形でしていくのかが今後重要であると感じています。</p>
委員	<p>就農支援では、大分県も国も助成金で支援しています。しかし、単年度、初期投資の部分が手厚く、ランニングコストの支援はありません。このような支援ではなく、やはり自立して取り組める事を考えないといけない。その地域で生活をして、市役所から言えば市税を納めてもらって、税金を納めてもらう形にしなければならぬ。そのためには、フォローの部分が今ちょっと弱い気がします。なんの政策にしても、ランニングコストというか、フォローの支援が制度上できないのであれば、他ではできない議論をこの会議体でお話していくのも一つの方法ではないかと思います。</p>
委員	<p>新しい人の流れをつくるという部分で、15ページに全国知名度ランキングが437位とあります。平成26年よりは上昇していますが、目標は200位を目指す設定です。相当遠い数字だと思います。私たちも日田を紹介するときに迷う部分があります。今、おんせん県おおいたということで、大分県としては多くのお金をつぎ込んでコマーシャルを流してやっています。日田も日田温泉もあって天ヶ瀬温泉もあってウリとしてはある。そっちの方面とは別に、経済圏としては福岡が近いということで、日田を知らない人には「福岡の隣なんですよ」とか、「北部九州の真ん中ぐらいですよ」という話をしています。大分は大分県としてやっているウリがある。日田では「今後は食、産業、移住等の情報を丁寧にやっていきます」ということになっていますが、丁寧に発信しただけでは200位にはならないと思います。戦略を作る時も尖った部分や、もっと打ち出しの強いものがないと、という議論があったかと思います。結局その時もいいアイデアが出せなかった。尖った部分は一つでなくてもいいと思います。それをやはり打ち出さないと知名度ランキングは上がらないし、やはり新しい人の流れはつけれないと思います。そこが必要ではないかと思っていますが、かといって私が何か案があるかというのと無いので申し訳ないのですが、必要だと思います。</p>
会長	<p>私は今年度から別府大学の広報室長となり、別府大学を売り出す取り組みをしています。先ほど雑談で話をしていたのですが、テレビドラマ化となった「豊後高田の昭和のまち」に関わった金谷俊樹氏と昔からの知り合いで、20年にわたる舞台裏の話しを本人から聞きしました。その話しが非常に参考になりました。中の人や素人が考えるアイデアでは売り出せないと思いました。外で活躍している人から考える視点が大事で、豊後高田の例としては、宝島（雑誌）の編集の人が、豊後高田市が昭和の町を目指しているということで、昭和レトロの特集を宝島で</p>

	<p>取り組もうとして訪れたら、7軒しかなかったそうです。その時は、「なんじゃこれは、売るのが何にもない」と愕然としたらしいです。ところが、そこにいるおばちゃんが、昔の生き生きとした体験を永遠と話すのに驚き、そのおばちゃんのストーリーから豊後高田のかつての町がよみがえる気がして、これだと思ったそうです。宝島のトップページを豊後高田が飾るのだと。そして、その編集者が帰る時に「これから取材大変ですよ」と言ったそうです。これは何かということ、宝島という雑誌は東京のマスメディアのネタ本になっているらしいです。雑誌が発売されて、1週間くらいして多くのテレビ局などが取材に来たそうです。1年間視察を含めて600件の取材を金谷さんは受けて、家に帰れず商工会議所に泊まったと言っていました。これは東京のメディア構造と外の人の視点で見つけたトレンドだと思います。日田は外部にもたくさんの方がいるところだと思います。その人たちを活用するネットワークはないのでしょうか。東京で日田を売り出す懇親会などを実施していないのでしょうか。</p>
事務局	<p>例えば同窓会組織であるとか、そういう場面に首長が出席して、東京、関西で開催される玖珠、九重出身者の会であるとか、そういったものに繋がりを持っております。そういった場面を使わせていただいて、例えばふるさと納税等をお知らせするなど、できることはさせていただいています。</p>
会長	<p>そこは切り込んで柔軟に取り組める事が必要ではないかと思えます。以前から、尖がった切り口が必要という内部議論もありました。先ほどのご意見では、今のような今後の取り組みでは、このまま横ばいでしょうという内容だったと思えます。ぜひ尖がれというご指摘ですね。私も人に言えた立場ではありませんが。</p>
委員	<p>昨年度176名の方が日田に移住されています。ひた暮らし推進室が窓口になってはいますけれども、そこに移住するということは、そこに子どもさんがいる、ご家族の方もいらっしゃるでしょうから、当然ですが家も必要になります。空き家も1,000件からありますから、家であれば住宅課、子どもさんがいるところであれば子ども未来室、就業の関係になれば商工労政課等が担当課となりますので、そういった横の連携ができていくのかという部分が気になりました。これからますますそのあたりが必要となってくると思えます。一つの窓口で全部紹介するのは難しいでしょうから、そこが連携できているのかなと思いました。それとその方からいろいろ相談があったときに、そういったところまで全部紹介や案内ができるか、このあたりがどうかと思いました。</p>
事務局	<p>ひた暮らし推進室が設置されてから、日田市移住定住ガイドとして関係する部署の内容を取りまとめて、リーフレットにして活用しております。子育てや就農・就業支援などを網羅した形で発信しています。ホームページでも閲覧できます。このような取り組みで、行政内部の横の繋がりをつくり、できるだけ壁をなくす取り組みも実施しています。</p>
委員	<p>9ページになります。産業観光年間視察団体数について24団体が目標で実績が0団体ですが、28年の10月に全国産業観光フォーラムin日田が開催されました。私</p>

	<p>も参加させていただきましたが、大きく観光という面では日田市はどんどん力を入れていくという状況だと思います。産業フォーラムを開催した年度ではありますが、開催しながら実績が0というのは、もう少し手が打てなかったのかと思いました。28年度が準備期間とし、29年度では視察団体が増える見通しになっているのでしょうか。それにしても0というのはどういう理由なのでしょう。</p>
事務局	<p>8月に開催した本部会議（庁内）の中でも議論いたしました。若干の準備不足ということからこのような実績になったということです。</p>
会長	<p>そうでしたら、次に基本目標3の「若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える」というところで何かありますか。</p>
委員	<p>私自身は子どもが6歳と4歳と2歳の3人いて、子育て真っ只中です。つい先日2回目の「日田市子ども・子育て会議」が開催され、その時に、お母さんたちが早い時期から子どもを預け、日田の人は子どもを預けて働きに出るのが早いという話がありました。私はずっと日田に住んでいますが、子育てに対する支援の充実という部分をすごく感じていまして、ほかの市町村と比べることはできないですが、日田は施設も充実しているのではないかと思います。困ったときにも直ぐ預けられるところも充実しています。保育園に子供を預けてしまおうというお母さんが結構多いという内容から、早くに子供を預ける方に、預けなくても支援がすごく充実しているということを伝えきれていなかったり、知ろうとしてなかったりするのかなと感じています。充実した子育て関係の情報が、ここに行けばまとめて分かるといった場所が増えていくといいなと思います。あと、基本目標3からでは、予防接種のモバイルサービスの登録率が達成しているとあります。私の一番下の子が2歳半で、途中からこのモバイルサービスが始まっていますが登録していません。予防接種は最初の適齢期の段階に多く接種をうけなければなりません。その後は、数が減ったりします。また、1歳半から3歳の間に受けるものが増えます。このサービスに登録しているお母さんから聞くと、1歳半になると、接種してくださいとメールが頻繁に入ってきて、3歳までに接種をうければいいのに、すごく急かされている感じで困っているという話を聞きました。登録はできていて目標は達成しているのかもしれませんが、サービス自体の改善点がきちんと届いていたらいいなというのが感じているところです。</p> <p>もう一点、「確かな学力の育成」のところにある、小5と中2の授業が好きだと思う割合という項目がありますが、小5は来年の今の小4が対象ということになるので、毎年対象の生徒が変わると思います。そういう部分で見ていくことに違和感を感じました。どうしてこのアンケートを選んだのか分かれば知りたいと思います。</p>

<p>委員</p>	<p>委員から最後に出た教育の部分で、子育て応援は日田はすごく取り組んでいます。それが伝わっているか伝わっていないかの問題はあるけれども、県内トップクラスだと思います。教育のところでは、全国一律の教育をやっている、ただ咸宜園というものをもう少し復習しようというところにあります。ここは19ページにも書いていますが、目的としては「子どもたちの能力を見出し輝かせるための支援」というところだと思います。私は録画でドラマチェックを必ずやっています。今昼は『とっとちゃん』というのをずっとやっております、行っていた近くの学校には全く合わないとっとちゃんが、別の学校に移るというストーリーです。その子どもの魅力というものが一つのテストの物差しとかでは計れないもので、黒柳徹子という人物は小学校時代は全く学校教育が合わない状況だったけれども、それが今はすごい人になっている。だから親としては子どもが本当に生き生き輝いて、将来頑張っていけるような子どもになってほしいと思っています。今ならスポーツともあるかと思いますが、いろんな他の面でも光るものを持った子どもに育ててほしいと思っているわけです。その部分を日田の教育の中で、保護者の方に伝えるものが取り組んでいるのかと思うとちょっとないと思います。だから、一律教育、必要最低限の学力、確かな学力という部分での物差しはきちんと持って取り組んでいるかと思いますが、それだけでは、生きていく力にならないと思います。その子にあった何かを見出すということが、今はその物差しだけでやっているような感じが全国的にあるように思います。この「授業が好きだと思う児童、生徒」の目標値を75%にするには、やはり一人ひとりの個性を伸ばしていくようなものがなければ難しいと思います。そして、それが保護者が、学校で自分の子をよく見てくれているな、というのがあるのが重要ではないかと思います。その点を今後の取り組みとして、どういうふうに教育委員会が打ち出すのかが大事ななと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私は子どもがいないので、聞いたことを中心にお話ししたいと思います。もともと私と日田を結んでくれた友達は、日田で子どもが生まれました。そのあと転勤で大分市に行きましたが、「このまま日田で子育てがしたかった」とすごく言っていました。それは子育て施策が充実していたからだろうなと思いましたし、安心な環境があったんだろうなと思います。私も日田の子どもたちと触れ合っていると本当にのびのびしているなと思いました。言いたいことをちゃんと伝える子が多いし、大人ともそういう関係ができているなど、長崎から来たらすごくそう思います。道ですれ違ったら挨拶をしてくれるとかも含めてなんです。もう1点、コミュニティスクールというのがありますが、大山町の学校も指定されています。先日、ママさんたちと話す機会がありまして、そこで出ていたのは、東京に合わせた教育が良いものと思われがちだけれども、今は体験重視になっているので、ここでしかできないことを大事にしてほしいということ言われていました。給食でも1人のママさんが言っていたのは、大山で出ていた給食かは分かりませんが、柏餅の柏がプラスチックだったという話がありました。「あそこに行</p>

	<p>けば柏の葉は取れるのに」と言っていたので、そういう文化的なものも含めてですが、子どもたちがその葉っぱがどういうふうになっていて、こうやってつくって、こういうふうに出てくるなど、その経過を体験できるといいと思います。昔の方が、稲刈りを一緒にやるなどの体験もあったとのことだったので、いかに教育委員会の方たちが住民の方々と地域と交わり一緒にできるかどうかかなと感じました。そういうところを一緒にお話できると、想いがあるお母さんたちがいっぱいいて、こういうご飯を給食に出したいというお店もあるので、そういう触れ合いができるとよいのではないかと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。質問なのですが、言いたいことを言える子どもたちというのは大山町だからなのでしょう。</p>
委員	<p>私は日田でも感じました。最初は日田に通っていたので、その子どもも本当にそう思いました。</p>
会長	<p>以前の学校の会議かどこかで、合併されたところの旧町村はあまりにも学校が小さくて、みんながいろんな役割をしなくてはならないので、小さいころから役割分担に慣れていて、大きなところに進学していくとみんなが何か言える子どもになっていたと聞いたことがあります。すごいなと思いました。</p>
委員	<p>19ページの「未来を拓く子どもたちを応援する」取り組みに関して、子どもたちの能力を見出すための支援、施策を前提に、特色ある学校教育と郷土愛を育むための取り組みの結果を評価するためのKPIとして、「授業が好きだと思う児童・生徒の割合」だけだと、本当の基本目標に繋がっているのかというのが分かりにくいので、日田のことが好きになったかどうか等の指標が出てきてもよいのかなと思います。また、特色ある学校教育というのが、咸宜園教育の理念を生かしたものだと思いますが、教育者ではないのでわかりませんが、例えば、日田の特色ではないけれども日本は金融に関する教育が少ないと言われています。そういうことを日田では1時間くらい教えてあげるとよいのではと思いました。そうすればその分野を好きな子どもが増えて、子どもたちの能力を見出すことに繋がるのかなと思います。このKPIを残しつつ、もう少し基本目標に対して評価してみてもよいのかなと思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございます。そうしましたら、時間の都合もございますので、基本目標4に移ります。基本目標4「人がともに支えあい、安全・安心で快適に暮らせる地域を創る」というところについて、どうぞご意見等いただければと思います。いかがですか。</p>
委員	<p>21ページの地域おこし協力隊及び集落支援員の数について、平成28年の実績値が15名で達成度が88.24%となっています。同じことの繰り返しになりますが、要するに目標値に人数が到達すれば100%というよりは、この地域おこし協力隊とか集落支援員が何をもってここに生きがいを感じているかということが一番大事だと思います。現在着任している方との検証や、担当課との話し合いなど地域おこし協力隊がどんどん意見を出せる場所が必要で、それをどのような形にす</p>

	<p>るかということに本来重点を置くべきだと思います。現状はどういった把握の仕方をしているのでしょうか。</p>
事務局	<p>地域おこし協力隊について、募集して応募がないこともありますし、応募があっても、面接をして日田市に適合するかについて試験を実施しています。そういった中での人材を協力隊として日田市に入ってもらっています。個性があって、日田市を好きになって着任している方がほとんどです。このような状況の中、協力隊や集落支援員の協議の場も多くやっております。お互いの頑張っている姿も見ることができます。そうした場面で評価もできているのではないかと考えています。今度も協力隊や集落支援員については、できるだけ人材を増やして地域で多く活躍してもらいたいと考えております。</p>
会長	<p>そういう会議にJCの方も参加しているのでしょうか。クロスするような形で。</p>
委員	<p>少し今のお話とは違いますが、私共の団体の例では、今回、水害の対応で、日田青年会議所としてではないんですが、日本青年会議所として社会福祉協議会と災害発生時の対応を連携する協定を締結していたことから、災害発生後、直接現地に入って対応しました。また、そのあともボランティアセンターの運営に携わってきました。私たちに限らず、こういった各種団体というのがあるときに、やはり団体同士のネットワークを密にしておけば、自立した地域経営というのには有効であると思います、例えば私たちの団体であれば、きちんと話がつけばこの団体で独自運営も組織としてできますし、そういった組織がいくつかあるのであれば、それを有効に生かすというのが1つの手段として感じます。</p>
委員	<p>地域おこし協力隊と集落支援員についてですが、私も何度か集落支援員の方と一緒に振興局管内を回っています。地元の方もいらっしゃいますけれども、集落支援員の方で市外から来て活動されている方もいらっしゃいます。回ってみると非常に頑張っていて、馴染んでいくというか、一人暮らしや高齢者だけで暮らしている世帯とかにも溶け込んでいて、来るのを楽しみに待っていていました。訪問したらご自宅に上がり込んで、私も一緒に40分くらい話し込んでしまったこともありました。だからそういう意味で、地域の方の、特に高齢者の方たちの繋がりをつくるのに非常に活躍していただいていると思います。しかしながら、逆にこのような支援に頼りすぎると、住民が自ら外に出て繋がる、コミュニティの基礎となる住民自身が繋がるということが置き去りにされるのではないかという危惧は持っています。協力隊員の方、支援員の方、非常に頑張っていて、彼らが来るのを本当に楽しみにしている方もいらっしゃるようです。この事については非常にいい取り組みですが、協力隊員や支援員の数を増やし、活動を強化することで「住民が自ら」という視点をもう少し気を付けていかないといけないのではないかと、現場を感じて思いました。だからどう生かしていくかは、よく考えていかなければと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。今、駆け足ですが基本目標1～4まで話しをしてきました。まだまだ多くの意見があると思います。今後のスケジュールも踏まえ、委</p>

	員の皆様方からの意見として事務局に提出してもらおう。その後、その意見を生かした形で次の見直し等をまとめ、第2回目の審議会で報告していただく流れでいかがでしょうか。
事務局	承知いたしました。
会長	委員の皆さん、今申し上げましたとおり、まだご意見等があるかと思えます。それをぜひ事務局に提出していただきたいと思います。 それでは次に地方創生加速化交付金の事業評価について事務局から説明をお願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ■資料3鑑「地方創生加速化交付金にかかる事業実施報告」について ■資料3-0 地方創生加速化交付金（まとめ） ■資料3-1 地方創生加速化交付金事業実績報告（様式）県広域連携事業 ■資料3-2 地方創生加速化交付金事業実績報告（様式）市単独事業 について説明
会長	<p>事務局から説明がありました2つの報告、大分県の取り組みと、市独自の取り組みとして、政府から助成金をいただきながら取り組んでいる事業としてありました。県広域連携事業については、ご説明ありましたように熊本・大分地震の影響での落ち込みがかなりあったわけですが、その中でもこのような取り組みを実施する事で、ある一定の下支えという意味での効果があったのではないかという説明でした。</p> <p>この事業についてのご判断はいかがでしょうか。ご意見等々ございますか。</p> <p style="text-align: center;">～ 意 見 な し ～</p> <p>市単独事業や県広域事業について、自然災害での、非常に不足の事態という説明がありました。このような事業に取り組み、下支えの一定の効果があったのではないか、そして市単独事業についても、一定の効果を認めることができるのではないか、ということでの事務局からのご提案です。これで了解するという事でよろしゅうございますか。</p> <p style="text-align: center;">～ 異 議 な し ～</p> <p>これで議題については全ておわりました。事務局から何かありますでしょうか。</p>
事務局	ありません。
会長	それでは、議事進行を終了したいと思います。ありがとうございました。
事務局	今日いただいたご意見のほかにありましたら事務局にご連絡いただければと思います。今後は、頂いた意見を踏まえまして冒頭説明いたしました2月、3月の審議会で議論していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

閉会のあいさつ
企画振興部長

委員の皆様には大変忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。また、今日はこのように趣向を変えて意見が出やすいようにということで開催したところでございます。時間が少なくて、まだたくさん意見があろうかと思えますけれども、また、別の機会にでもいろんな意見を言っていただきたいと思います。日田市につきましては、目下のところ豪雨災害からの復旧復興が一番の課題であろうかと思っております。また、市長も申しておりますように、創造的な復興を進めているところでございますので、この創造的な復興が地方創生に繋がっていくのではないかと思っております。総合戦略の中でも様々な施策を進めております。そうした中で小さな成功体験を積み重ねていくことが大事であると思っております。また、委員の皆様にも次回の審議会をよろしくお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。